

臓器移植の普及啓発について

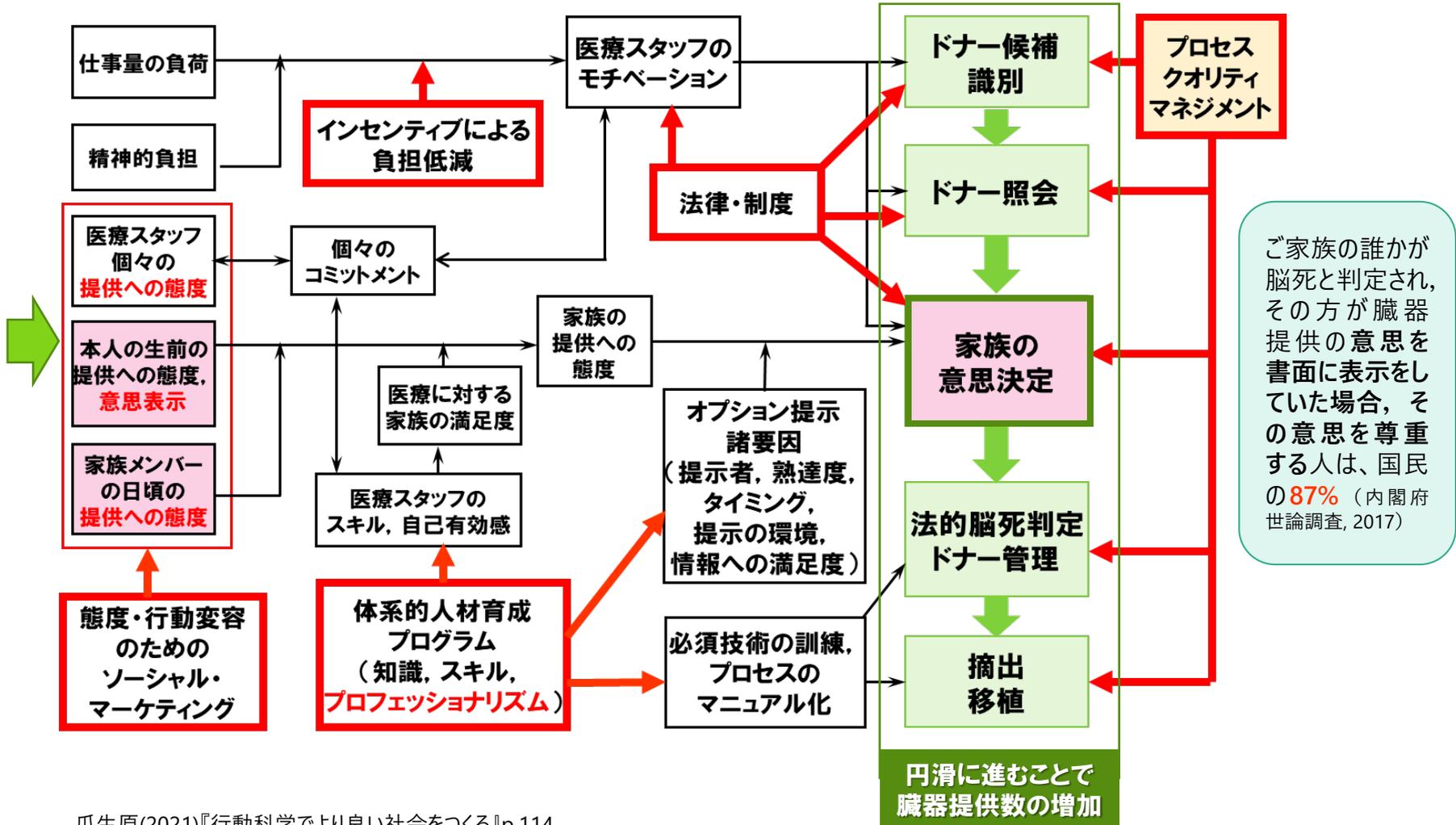
同志社大学
商学部 / ソーシャルマーケティング研究センター

瓜生原葉子

頁	項目	要約
1. 移植啓発の方針		<ul style="list-style-type: none"> 移植啓発の目的：日頃の対話、態度決定、意思表示を促す。 科学的根拠に基づく啓発活動(EBE)を行う必要性。 エビデンスと理論に基づいた科学的な施策立案と成果指標の測定・評価が不可欠。
2-3	移植啓発の目的、現状、その解決方法	
4-6	意思表示行動メカニズムに基づいた施策の立案と評価、具体的な評価項目	
2. 京都府の取組（前回資料）に対する結果		<ul style="list-style-type: none"> 施策の行動目標を明確にし、理論とエビデンスに基づく施策を立案・実施し、各目標にあった指標を測定した。 若年層へのアプローチは、行動変容ステージ、各年代の発達段階などを考慮し、行動目標を明確にすることが望ましい。
8-9	「計画的行動理論」を用いた運転免許センターでの啓発	
10	エビデンスに基づく対話促進を目指した音楽フェス	
11-14	行動変容ステージモデルに基づく年代別の介入施策	
3. 学校教育に対する取組		<ul style="list-style-type: none"> 中学校道徳の教科化により、約60%が臓器移植の授業を実施し、満足度・継続意図は約90%であった。 補助資料に対するニーズが高く、情報を一元化したサイトの作成とコンテンツの充実を図っている。 中学校、高校、大学、社会人に至るまで連続的に、移植医療を通して生命について自分ごととして考える機会を提供する環境整備が必要。
15-19	中学校道徳における臓器移植教材の実施状況	
20-22	資材の活用状況	
23	小学校から大学までの接続教育	
4. 海外の取組と日本の課題		<ul style="list-style-type: none"> 国を超えて意思決定・意思表示に重要な因子は、家族との対話経験、不安が低く、コミットメント・誇りが高いこと。 日本の課題は <ol style="list-style-type: none"> 「YESの推奨」をメッセージすることが難しい。 臓器提供は「誇り」という規範が醸成されていない。 各地域で人々のコミットメントを高める施策が十分でない(情報提供中心)。
24-25	意思決定・意思表示の国際比較	
26-31	スペイン、米国、豪州の取組	
32	海外と比較した日本の課題	

移植啓発の目的

家族の意思決定を助ける → **日頃の対話、態度決定、意思表示を促す**



移植啓発の課題とその解決方法

多くの現実・・・

目的が不明確

- ❑ 知ってほしい？
- ❑ 共感してほしい？
- ❑ 意思決定してほしい？
- ❑ 意思表示してほしい？
- ❑ 家族と話してほしい？

対象が不明確

- ❑ 市民全員？
(不可能)
- ❑ 若年層？
- ❑ 無関心層？
- ❑ 関心層？
- ❑ 意思決定層？

内容がアイデアベース

- ❑ どのような知識を必要としているのか調査している？
- ❑ 一方的に知識提供していない？
- ❑ **理論**に基づいてる？
- ❑ **Evidence**に基づいてる？

活動の評価が乏しい

- ❑ Output(参加者数、配布数)だけではなく **outcome(態度・行動の変化)**測定してる？
- ❑ 費用対効果を測定している？
- ❑ 適切な評価している？

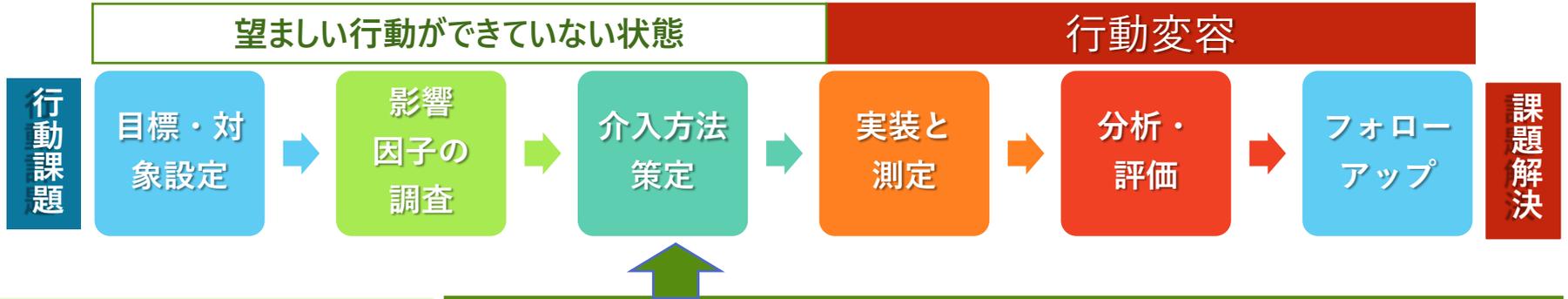


科学的根拠に基づく啓発活動(EBE)を行う

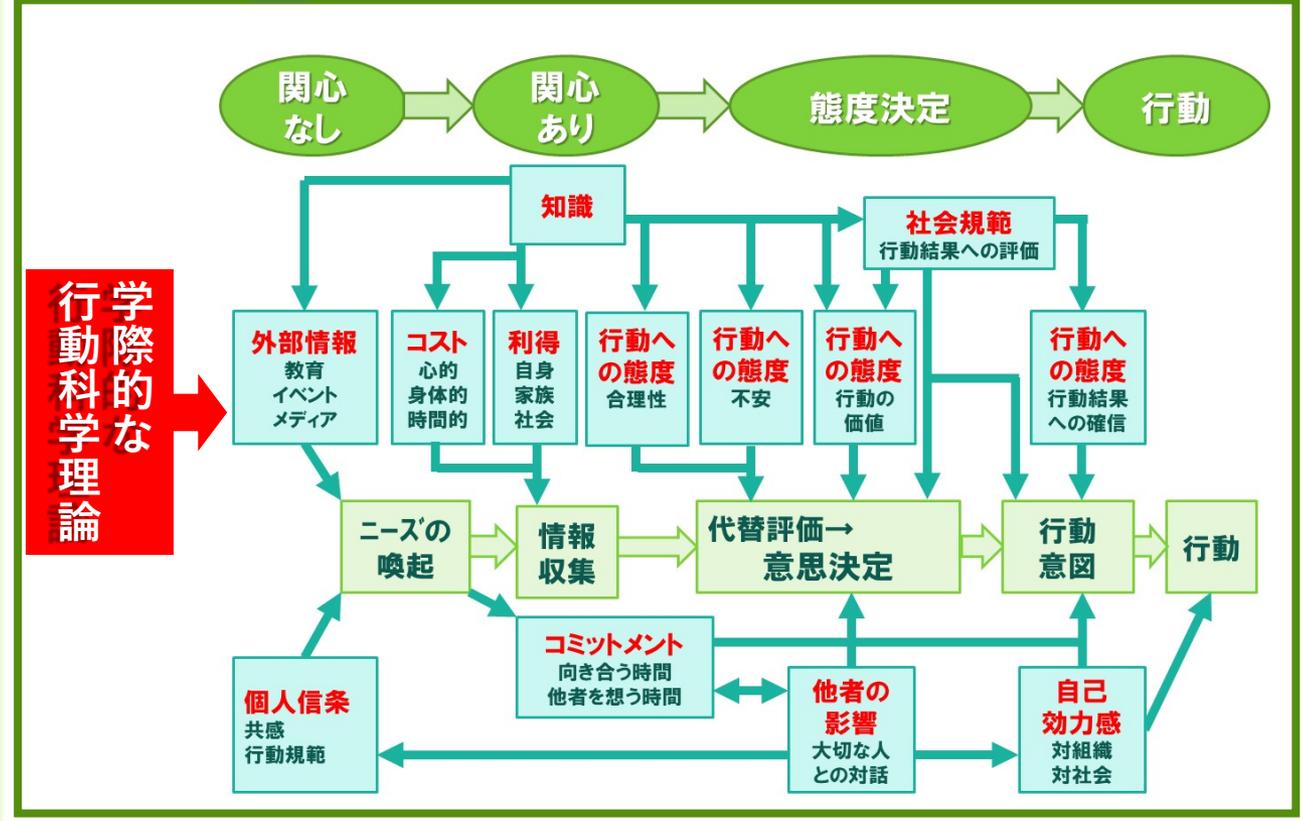
(Evidence Based Enlightenment activities)

1. 情報伝達から「行動変容」へ
2. 意思表示行動メカニズムに基づき介入施策を立案する
3. 介入施策の効果を測る

科学的根拠に基づく行動変容の促進



- 個人レベルの行動理論**
- レスポンデント条件づけ, オペラント条件づけ
 - 動機付け理論
 - 認知的不協和理論
 - 健康信念モデル
 - トランスセオリアルモデル・行動変容ステージモデル
 - 合理的行動理論・計画的行動理論
 - 防護動機理論
- 個人間における行動理論**
- 社会的認知理論
 - ソーシャルネットワーク理論
 - ソーシャルサポート理論
 - 認知的均衡理論
 - 対人行動理論
- コミュニティ・グループにおける行動理論**
- 社会関係資本論
 - イノベーションの普及理論
 - システム思考
- 行動経済学**
- プロスペクト理論
 - ヒューリスティック
 - 選択アーキテクチャ (ナッジ)

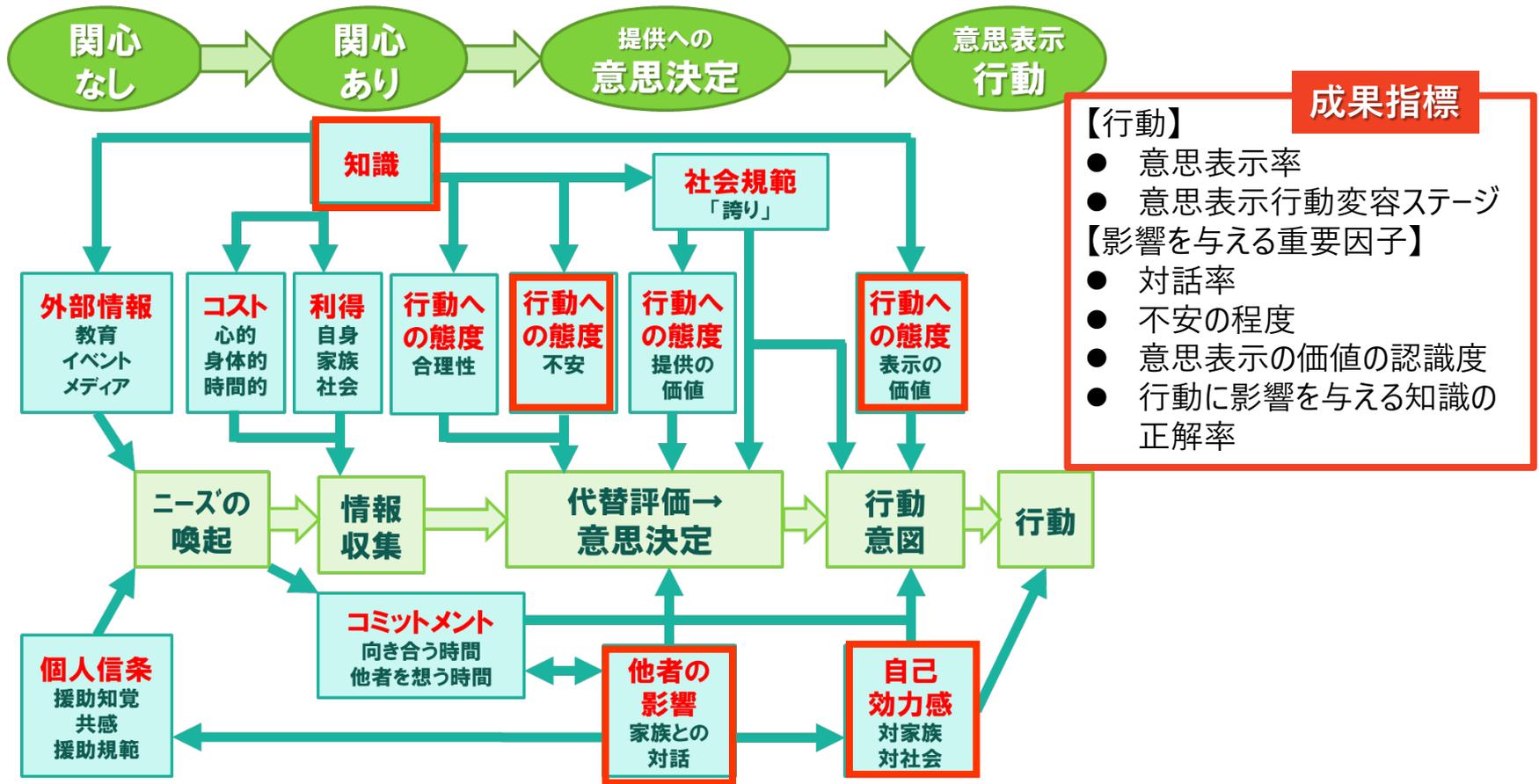


意思表示行動メカニズムに基づいた施策の立案と評価

鍵は以下の点

- ①臓器提供について**家族と話す機会**、②**正しい知識**を得て誤解に由来する**不安がなくなる**、③**意思表示の価値**を感じ、**他者・大切な人から評価されていると感じること**

行動変容ステージ



目的と連動した成果指標を設定する（代表的な10問・5問）

次元	10項目	5項目	質問	回答選択肢	
成果変数	行動変容 ステージ	●	●	あなたは、今、『臓器提供の意思表示』について、どの段階にいますか。一つ選んでください。	1. 関心がない 2. 臓器提供やその意思表示に関心はあるが、まだ具体的には考えていない 3. 臓器提供やその意思表示に関心はあり、考え中 4. 臓器提供にYES/NOは決まった、意思表示するまではまだ考えていない 5. 意思表示をしようと心に決めたが、まだしていない 6. 意思表示をしている 7. 意思表示したことを、家族や友人に共有している ※5段階の場合、「1.関心なし、2.関心あり、3.意思決定した、4.意思表示している、5.家族に共有している」
過去経験	家族との 会話	●	●	死後の臓器提供や意思表示について、家族と話し合ったことがありますか	1. 一度もない 2. 一度だけある 3. 数回ある 4. しばしばある
イメージ	誇り	●		臓器提供に対して誇りを感じますか	1. まったくそう思わない 2. そう思わない
	身近	●		臓器提供を身近に感じますか	3. あまりそう思わない 4. どちらともいえない
	不安	●	●	臓器提供に対して不安を感じますか	5. ややそう思う 6. そう思う
認識	意思表示の 価値	●	●	意思表示をしていれば家族に負担がかからないと思いますか	7. とてもそう思う
知識	脳死	●		脳死になると回復することはない	1. ○ 2. × 3. わからない
	臓器提供 プロセス	●		臓器を取り出す際に複数の傷ができる（誤） or お身体はきれいな状態でかえってくる（正）	
		●	●	臓器提供後のお身体は3～6時間で家族のもとにかえってくる	
	意思表示	●		意思表示は書き直しできる	

「臓器の移植に関する法律」(抄)

第3条 国及び地方公共団体は、移植医療について国民の理解を深めるために必要な措置を講ずるよう努めなければならない。

○長崎県の取組

- ・長崎県移植医療推進協議会の設置
長崎県が平成26年度特別地域支援事業に採択されたことを契機に設置
委員は臓器移植施設、臓器提供施設、アイバンク、組織バンク、長崎県、県臓器移植コーディネーター、移植医療に関する学識経験者、県医師会、民間団体等で構成し、県知事が委嘱する。
年2回開催

・意思表示の確認

県でパンフレットを作成、各医療機関に送付。

・臓器移植普及推進月間のグリーンライトアップ

(令和2年度) 長崎庁舎、稲佐山、風頭公園龍馬像
長崎みなとメディカルセンター



○京都府の取組

・「MUSUBU実行委員会」の設置

<https://www.musubu-syvp.com/musubu>

移植啓発に関わる行政、医療機関、市民団体、大学の連携組織がハブとなり、地域ネットワークを形成して市民が一体となって参画する仕組みを構築。また、行動科学に基づく啓発EBE (Evidence Based Enlightenment Activities)を展開している。

・運転免許センターでの啓発

オリジナルのポスター掲示と意思表示カード配布。
(取組みの研究結果を学会で発表、優秀賞受賞。)



・「MUSUBU」開催 <https://www.musubu-syvp.com/>

平成30年度(MUSUBU2018)は、第20回臓器移植推進国民大会(こどもから大人までが楽しく移植を知るイベント432名参加)、および関連行事(京都駅大階段での音楽フェス870名参加)を開催。

令和元年度は、MUSUBU2019として、グリーンライトアップ、移植医療科学館、サイエンスカフェ、いのちの授業、親子でアルバムづくり、就活×社会課題解決セミナーなどを開催。

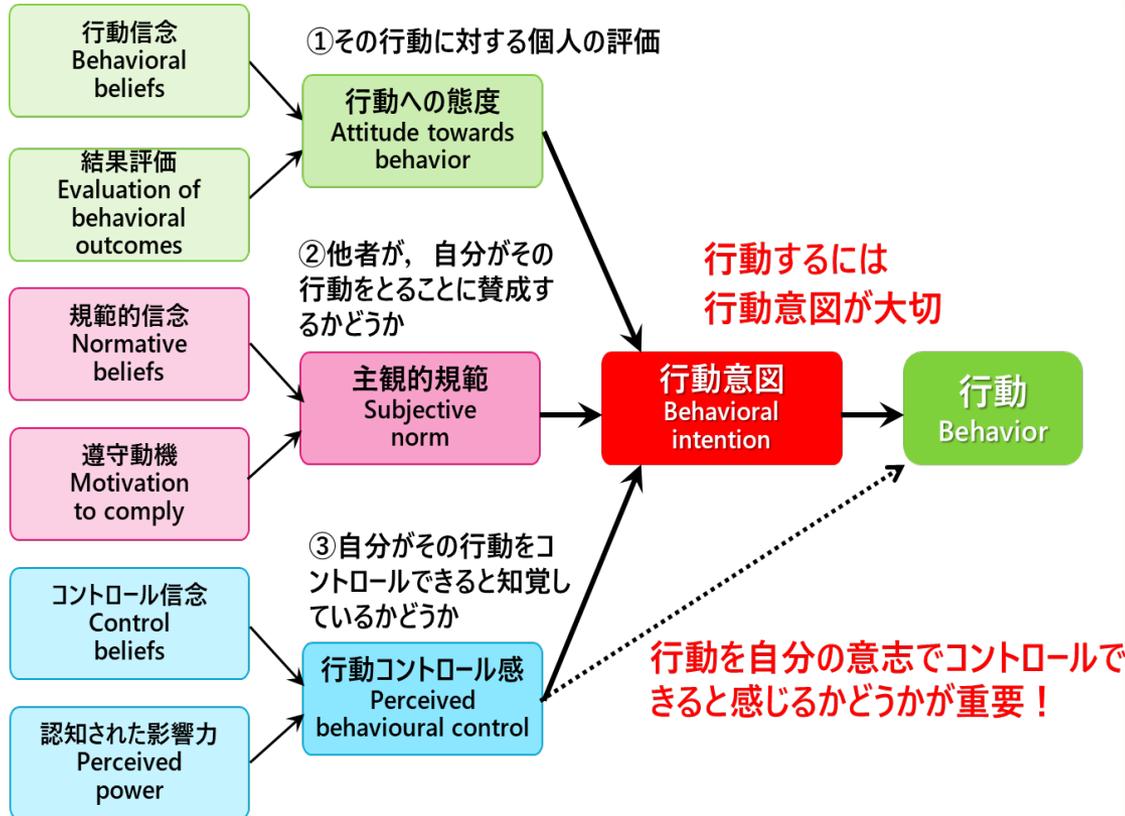


「計画的行動理論」を用いた運転免許センターでの啓発

命の責任を担う覚悟した日に「意思表示の価値」を気づかせる

- ①大切なことと認識する（行動への態度）
- ②きつとまわりの人もよいと思っているんだろうなと思う（主観的規範）

計画的行動理論



運転免許試験場で、オリジナルポスター掲示



「計画的行動理論」を用いた運転免許センターでの啓発

試験合格者に、免許交付までのお守り型の意思表示媒体「御守カード」を配布



ポスターで存在を気づかせる



これからハンドルを
握るあなたへ
警視庁「交通安全」

警視庁サイト
<https://www.keishicho.metro.tokyo.jp/smph/kotsu/index.html>



もっと知って、
もっと話そう。
臓器提供の意思表示。

日本臓器移植ネットワークサイト
<http://www.jotnw.or.jp/motto-ishiyouji/>

意思はいつでも、何度でも、
変えることができます。
表示してください、あなたの“今”を。

万が一の時、自分の臓器を
提供してもいい 提供したくない

当てはまる方にシールを貼ってください

同志社大学 瓜生原葉子研究室 Share Your Value Project

③ 「一度書いてみる」ことで、
自分の意志で行動をコントロールできると感じさせる

【結果】

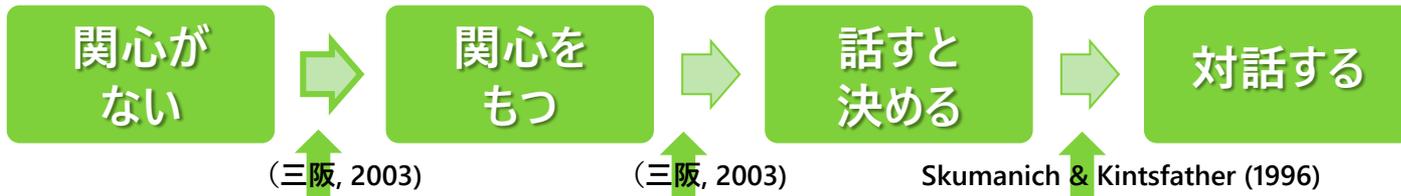
第一種普通自動車運転免許を新規取得する444名を対象にアンケートを実施、51名(11.4%)が回答。

- 80.4%がポスターを見ていた。見た人の56.1%が意思表示の意義を感じたと回答した。
- 11.8%が「御守カード」に意思表示した。

エビデンスに基づく対話促進を目指した音楽フェス (MUSUBU2018=第20回国民大会)

エビデンスに基づくコンテンツを盛りこんだ「対話」行動への変容促進により

- **88.6%**がFES後に家族と移植医療について**対話**
- 提供について考え始めた人：54%⇒88%
- 意思決定した人：32%⇒50%、意思表示：9.1%⇒40.9%



認知・知識

イメージカラーを見ることで、ある事象の認知を促すことができる (諸原他, 1995)

動機

タレントの好感度と商品への**関心**との間に正の相関がみられた(牧野, 2007)

関与の程度

「**関与の程度**」が行動を起こす重要な介在要因(Skumanich & Kintsfather(1996))

“緑”を会場内で目立たせた

講義に**クイズ**を挿入することで、学習者の学習意欲を喚起させた (佐藤他, 2015)

アーティストによる移植に関するトーク

直接体験を聞くことは対象理解のよい機会(徳永他, 2011), **援助規範**が動機の一要因 (三阪, 2003)

全員が直接参加できる非日常の企画

京都駅大階段 延べ870名参加

知識提供をクイズ形式、事前調査で質問を絞る

移植待機者によるトーク

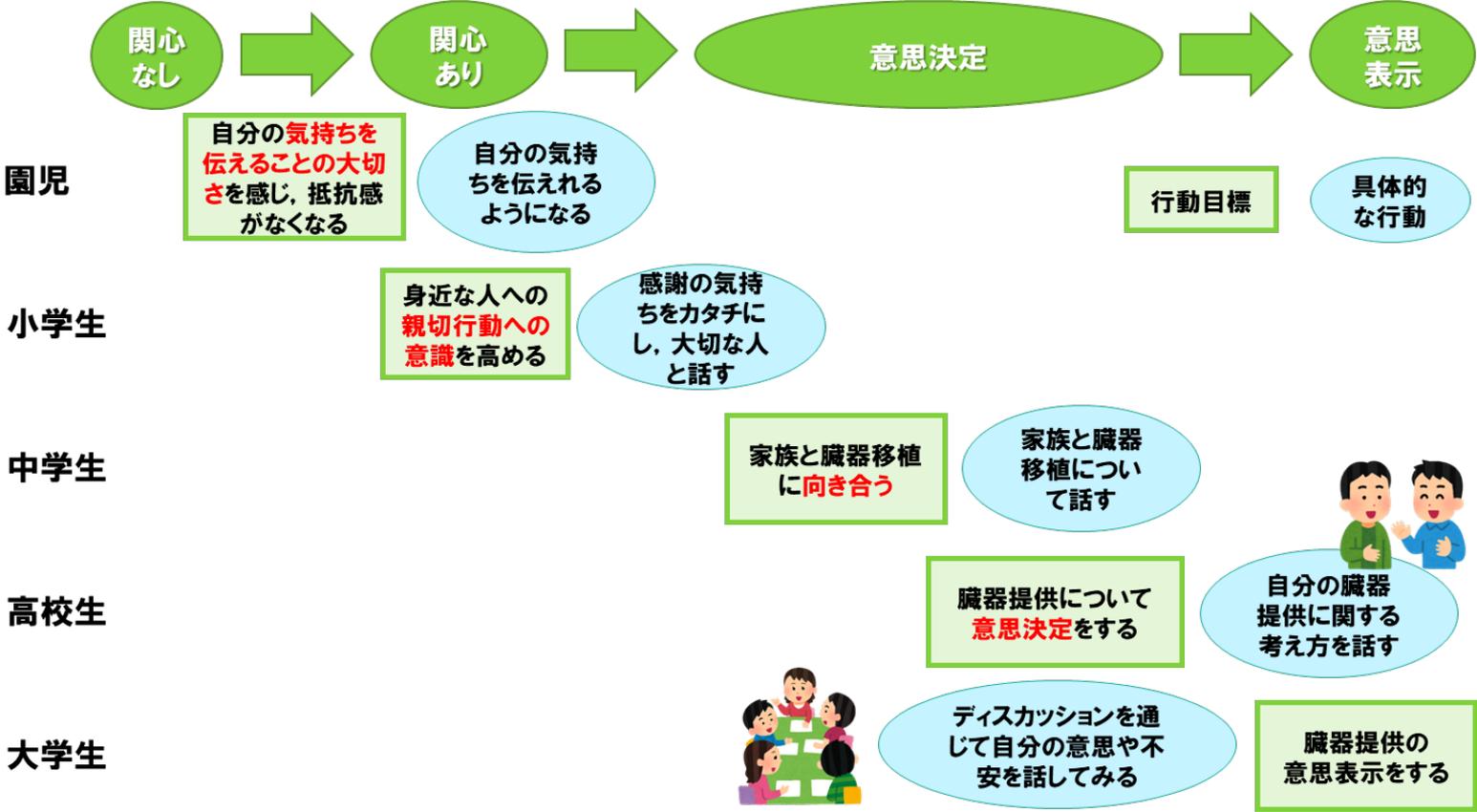


行動変容ステージモデルに基づく年代別EBE (MUSUBU2018=第20回国民大会)

年代別に行動目標を定め、EBEを展開する
大学生になるまでに一度は意思決定しておく！

【根拠となるevidence】

- 意思決定した人が意思表示をした割合は57%，意思決定していない場合は15%。
- 大学時点で意思決定していない人は67%。



年代別の行動目標に基づくEBEの展開：園児（MUSUBU2018=第20回国民大会）

臓器提供に関して興味を持った時に、素直に自分の思いを伝えらえる素地をつくる

行動目標

家族への想いをカタチにする

⇒25名の園児（保護者32名）参加

知識目標

カタチとなった家族への想いの温かさを知る

⇒保護者アンケートの結果、「大切さ、暖かみ、安心」の言葉を得られた。

信条目標

想いをカタチにすることは嬉しいことだと思う

⇒保護者アンケートの結果、93.8%の保護者が、「こどもは嬉しそうに見える」と回答

⇒園児観察法の結果、嬉しいと感じている際の行動の一つである「笑う」という行動は、**すべての園児**に見られた。絵を指さす（48%）、走り回る（20%）、飛び跳ねる（12%）も認められた。

「家族とわたし」をテーマに計115点の園児の絵画を展示

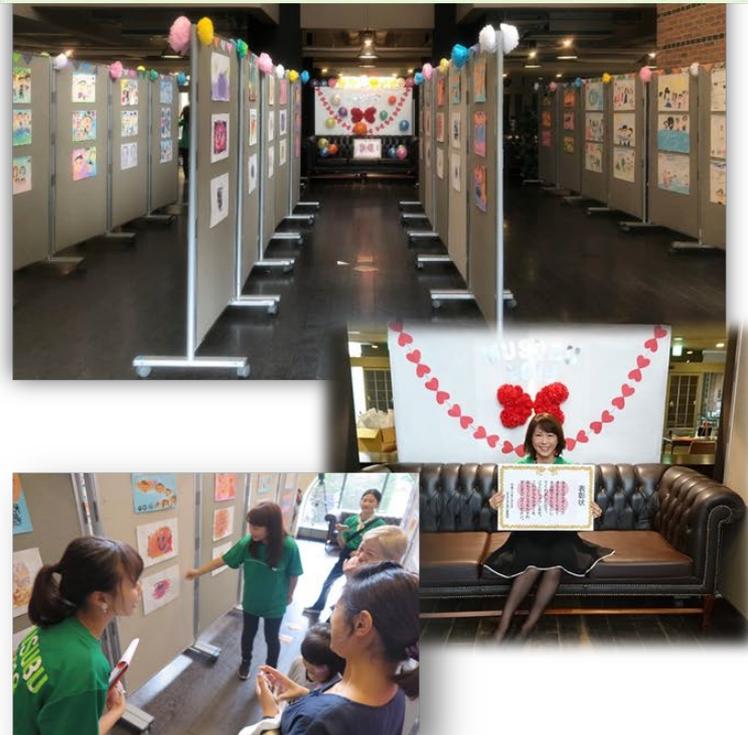
幼稚園で絵を描く

⇒家族で展示を見に来てもらう

⇒家族と対話し、「ほめ」の機会をつくる

⇒国民大会を家族との楽しい思い出にもらう

上記一連の体験を通して、**想いをカタチにすることはうれしいことだ**と思ってもらう



年代別の行動目標に基づくEBEの展開：小学生（MUSUBU2018=第20回国民大会）

感謝の気持ちを具体的なカタチにする、命の大切さについて考える

行動目標

- 家族に感謝の気持ちを伝える
- 命の大切さについて考える

⇒35名の小学生参加。

⇒62.5%が「生の大切さについて考えられた」と回答。
「葉っぱのフレディー」を聞いて「命はつながっている」、
「いのちがだいじ」など「命」が多く記述されていた。



知識目標

沢山の人・ものに支えられていることを知る

⇒アンケート結果、とてもそう思う56.3%（前）→87.5%（後）

信条目標

家族に感謝の気持ちを伝えることは嬉しいと思う

⇒「家族にありがとうと思うことがあるか」との設問に対して、
とてもそう思う：62.5%（前）→87.5%（後）と増加



次の日の雪の日の明け方、フレディーは迎えに来た風によって、枝を離れました。痛くもなくこわくもありませんでした。
フレディーはダニエルから聞いた「いのち」ということばを思い出しました。「いのち」というのは永遠に生きているのだ、ということでした。

【プログラム】

- 絵本「葉っぱのフレディー」の朗読
- 自分が支えられていると思うものや人を書きだすワーク
- 感謝の気持ちを伝える色紙の作成

第20回臓器移植推進国民大会「My Story Fest」
～きみから始まる意思のリレー～

わくわく！キッスティーパーティー

0円パフェ大作戦
キッスティーパーティーに参加していただいた小学生には、同志社で大人気のパフェをなんと、**無料でプレゼント**します！（先着50名）
対象：小学生
時間：14:00～16:30

キッスティーパーティー
ありがたい気持ちを込めたすてきな色紙を作って家族にプレゼントしてみませんか？
お菓子やジュースを飲みながら楽しく作りましょう
忘れられない思い出になること間違いなし！！
対象：小学生
場所：地下1階会議室A
参加費：無料
時間：13:30～14:30頃

びっく科学体験コーナー
体の臓器の模型のガチャガチャや、VR体験などをして楽しく体の仕組みを知ってかきこくっちゃおう！
本物のナース服体験もできるよ！
対象：幼児～
参加費：無料
時間：12:30～16:30

フェイスペイント
お顔に好きなデザインを7口の方に描いてもらえよう！皆で楽しもう！
対象：幼児～
参加費：無料
時間：12:30～16:30

詳しくはこちらまで！

2018年10月7日(日)
@同志社大学寒梅館
主催者：厚生労働省・京都府・(公財)日本臓器移植ネットワーク・(公財)日本腎臓財団
連絡先：京都府健康福祉部健康対策課
kental@pref.kyoto.lg.jp
※保護者の方のご同伴をよろしくご願ひ致します。

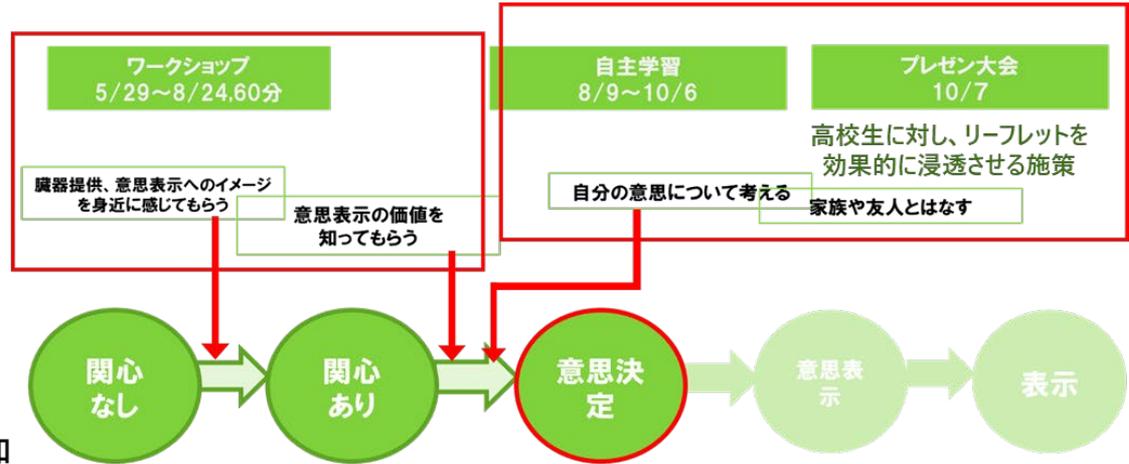
年代別の行動目標に基づくEBEの展開：高校生 (MUSUBU2018=第20回国民大会)

主体的な学習で、自分の意思に向き合い、意思決定を試みた

行動目標

一度意思決定をする

- ワークショップ実施：6校121名
- 身近と思う程度が有意に上昇
- 臓器提供は自分の誇り、家族の誇り、家族の悲しみを低減するとの考えが有意に症状
- 意思決定層が10.6%→24.7%に増加
- 意思表示：0人→4人/10人に増加



中学校における道徳の教科化（2019年度より）

7社の教科書に、臓器移植が「生命の尊さ」を学ぶ題材として掲載された

○中学校道徳教科書一覧

出版社名	教科書タイトル	シェア	教材名	主な内容	学年	ページ (実施月)
学校図書	輝け 未来 中学校道徳	令和3 年から 休刊	大きな木	(物語調) 絵本の抜粋を読み、自分の死後、臓器が他人の役に立つのであれば提供したいのかどうかを考える。	2	200 - 207 (2月)
教育出版	中学道徳 とびだそう未来へ	11.2%	家族の思いと 意思表示カード	(物語調) 提供の意思を示していた大学生の両親の意見の相違から自分の意思を考える。	3	126 - 127 (2月)
日本文教出版	中学道徳 あすを生きる	24.1%	臓器ドナー	「臓器ドナー」自分の場合には提供に肯定的であるが家族には否定的な新聞投稿を読み、立場を変えて考える。臓器移植をめぐる2つの立場	3	96 - 99 (9月)
廣済堂 あかつき	中学生の道徳 自分をのばす	5.4%	ドナー	「ドナー」上記と同じ投稿を読み、命はだれのものなのかを考える。臓器移植をめぐる2つの立場	3	88 - 90 (10月)
学研教育 みらい	中学生の道徳 未来への扉	9.4%	あなたの命は誰のもの	移植医療を6人の立場からコメントを掲載、考えさせる	3	146 - 149 (1月)
光村図書	中学道徳 きみがいち ばんひかるとき	21.2%	つながる命	「つながる命」6歳未満の娘の提供家族の手記を読み、その家族の気持ち、命とは何かを考える。新聞記事として掲載	2	70 - 72 (7月)
日本教科書	生き方を創造する	0.7%	臓器移植をめぐる命と心	(随筆調) 「臓器移植をめぐる命と心」	3	154 - 159 (12月)

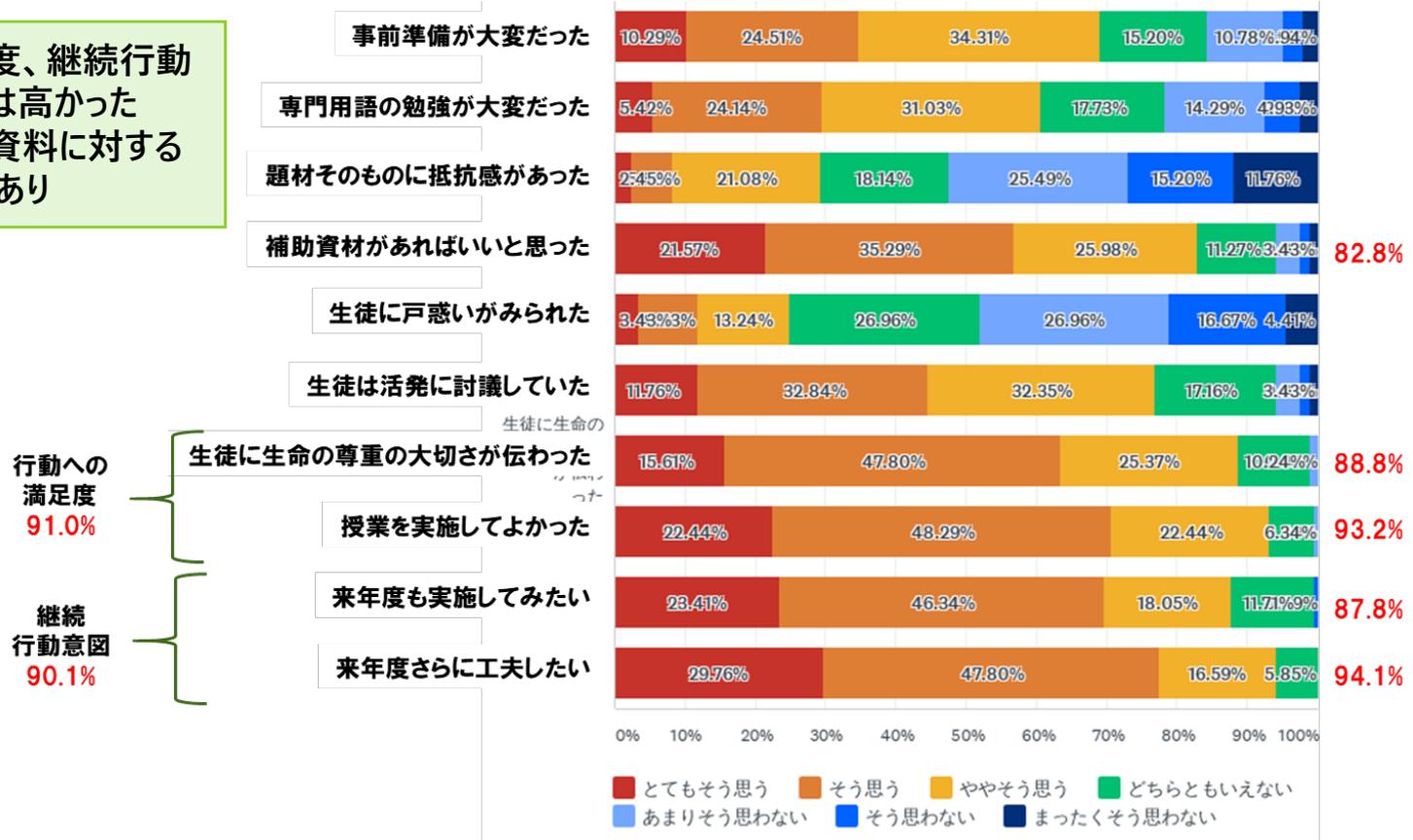
* 東京書籍は、記載なし、付属資料としては存在〔シェア：28%〕

中学校道徳における臓器移植教材の実施状況

2019年度56.4%、2020年度は60.7%で実施

※北海道、茨城、富山、徳島、福岡、長崎の全中学校1,461校にダイレクトメールを送り、回答を得た364名を対象
 (以下は、そのうち実施した205名の回答)

- 満足度、継続行動意図は高かった
- 補助資料に対するニーズあり



厚生労働科学研究費補助金 移植医療基盤整備研究事業
 「小児からの臓器提供に必要な体制整備に資する教育プログラムの開発」

中学校道徳授業の情報源、資材の活用度

厚労省冊子の活用意向86%、情報源は教科書会社・インターネットが多い

厚労省の資料に関して(n=276)



厚労省からの配布資料

- 認知している：76.1%
- 配布している：62.7%
- 授業で活用している：23.6%
- 今後活用してみたい：85.9%

授業準備の情報限(n=205)

情報源	割合
教科書会社の資料	36.9%
他の教科の資料	3.6%
厚労省から配布されている資料	4.6%
日本臓器移植ネットワークHPの資料	22.1%
インターネットで検索して見つけた資料	27.2%
その他	5.6%



- 「どの情報を選んでよいかどうかわからない」という声あり
- 情報を一元化したwebsiteの必要
 - 教科書会社へのアプローチも検討の余地あり

「生命の尊さ」を伝える広場 <https://www.seimeisonchou.com/>

- 移植を前面に出さない ← 移植に関わるサイトは移植を推進しているのではという懸念を払拭
- サイトの名称，文章，写真：教育を前面に出す，親しみやすいイメージ

厚生労働科学研究費補助金事業

「生命の尊さ」に資する教育プログラムの開発

ホーム 授業支援ツール 多様な模擬講義 教育セミナー よくある質問 私たちについて

「生命の尊さ」 を伝える広場

子どもたちにどう伝える？



中学校の道徳の授業をお考えの先生に

「生命の尊さ」の授業

2019年度から道徳が教科化されました。4つの視点のうち、D「主として生命や自然、崇高なものとの関わり」に含まれる「生命の尊さ」という価値について、中学校において（こと）や有限性なども含めた理解を促し、かけがえのないここでは、臓器移植を題材として「生命の尊さ」の

厚生労働科学研究費補助金 移植医療基盤整備研究事業
「小児からの臓器提供に必要な体制整備に資する教育プログラムの開発」

行動変容段階別にコンテンツを構築

「生命の尊さ」を伝える広場 <https://www.seimeisonchou.com/>

道徳教材セット「つながるいのち」

アニメ



生徒用冊子・教師用手引

こちらをクリック

臓器移植についての解説映像（動画）



←初めて授業を行う先生へ



さらなる工夫をお考えの先生へ ↓

中学3年生向けパンフレット

厚生労働省では、すべての中学生に対して（学校宛に）、パンフレットを送付しています。その使い方を示した手引書も併せてご活用ください。

こちらをクリック



移植を受けた方の声、臓器提供をしたご家族の

こちらをクリック

移植経験者、臓器提供ご家族の手記（冊子）

こちらをクリック

授業組み立てに関する論文

こちらをクリック

（高校生に対する臓器移植に関するPBL授業について）

小学生・中学生向けのキッズサイト

子どもたちが臓器移植医療について楽しく学べるサイト

こちらをクリック

アニメで知る移植医療「ヒーロー」

心臓病で倒れた同級生の姿に直面し、小学生のタクオが初めて体験する「命」のストーリー。

企画：日本移植学会 漫画：佐藤 秀峰

こちらをクリック

臓器移植に関する資料

（公社）日本臓器移植ネットワークでは、子どもたち、教員向けの資料が用意されています。

- ・意思表示カード付リーフレット
- ・絵本リーフレット
- ・小冊子「いのちの贈りもの」
- ・日本の移植事情

こちらをクリック

多様な模擬講義
「臓器移植」についての授業の動画とポイントを共有します

東京学芸大学附属国際中等教育学校
佐藤毅先生による動画（17分）

筑波大学附属中学校 多田 義男先生による授業動画（22分）
生命尊重について考える道徳授業の実践～新聞記事に掲載された同級の手記より～

生命尊重について考える道徳授業の実践

©2019-2021 厚生労働科学研究費補助金 移植医療基盤整備研究事業「小児からの臓器提供に必要な体制整備に資する教育プログラムの開発」

厚生労働科学研究費補助金 移植医療基盤整備研究事業
「小児からの臓器提供に必要な体制整備に資する教育プログラムの開発」

教育者向け資料の整備と活用状況 (JOT)

教育者の方へ：道徳教材セット「つながるいのち」

- ①マンガを使用した映像、②生徒用の冊子、
- ③教師用手引書〔指導案を含む〕

* 2020年4月14日リニューアル



アクセス概要

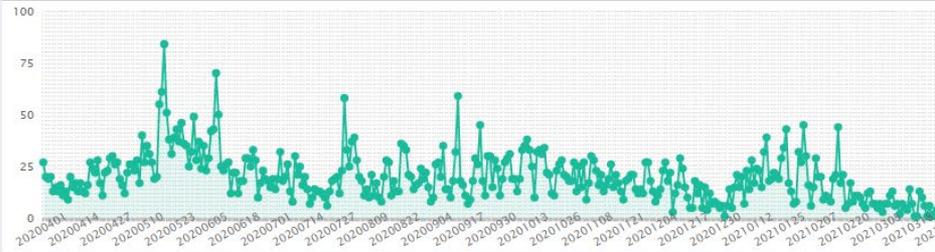
- 2020年5月12日時点
 - 訪問者数：7,252人
 - ページビュー数：17,061 PV
 - 動画再生回数：4,420回
- ※道徳教材キット「つながるいのち」ダウンロード数は計測できませんでした

期間 ~ 比較 前の期間

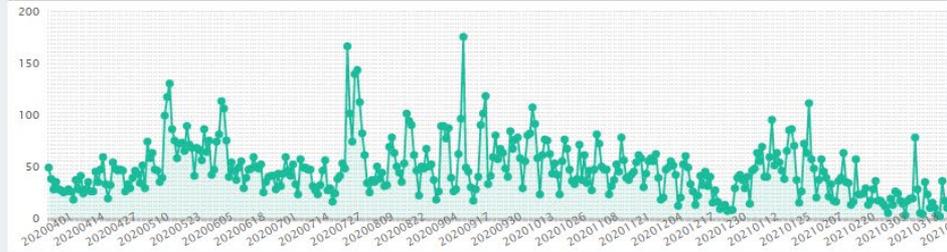
URLフィルタ

項目 [サマリー](#) [訪問者数](#) [ページビュー数](#) [平均セッション時間](#) [ページ閲覧順位](#) [直帰率](#)

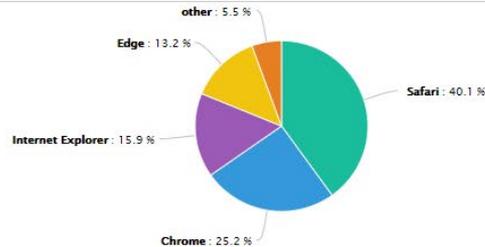
訪問者数：7,252人 月間AV. : 604



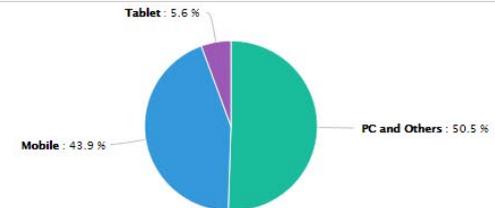
ページビュー数：17,061 PV 月間AV. : 1,421



ブラウザ別



使用デバイス



平均セッション時間：3分34秒

検索キーワード

順位	検索キーワード	回数
1	臓器移植ネットワーク	28
2	臓器移植 海外比較	26
3	臓器ドナー 道徳	16

参照元

順位	参照元	回数
1	google / organic	3409
2	(direct) / (none)	1488
3	yahoo / organic	1374

直帰率：62.91%

教育者/若年層向け資料の整備と活用状況 (JOT)

キッズサイト

* 2020年4月14日リニューアル



アクセス概要

- 期間：2020年4月1日～2021年3月31日
- 訪問者数：43,083人
- ページビュー数：98,774 PV
- 閲覧上位ページ：脳死と植物状態臓器移植とは

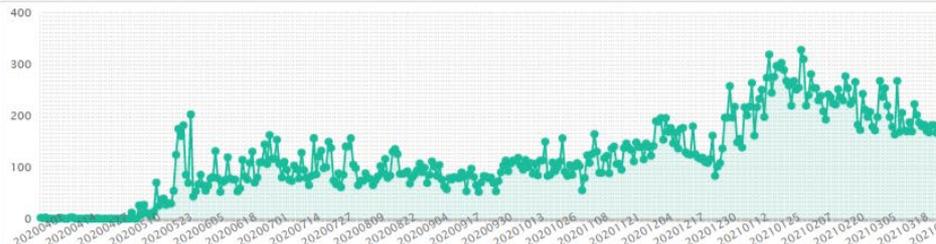
期間: 2020-04-01 ~ 2021-03-31 比較

URLフィルタ: kids/

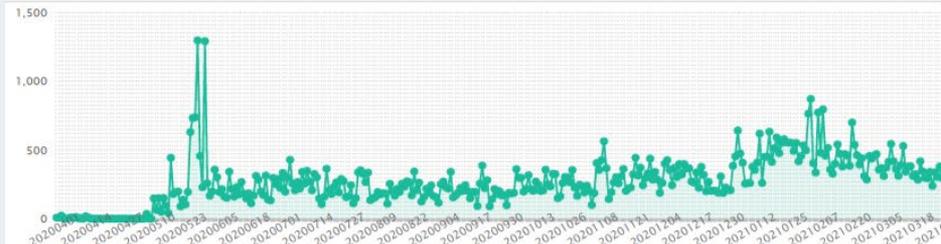
項目: サマリー 訪問者数 ページビュー数 平均セッション時間

ドメイン 性別 年齢別

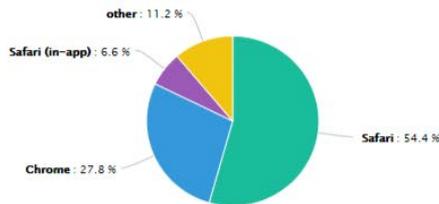
訪問者数 : 43,084人 月間AV. : 3,915



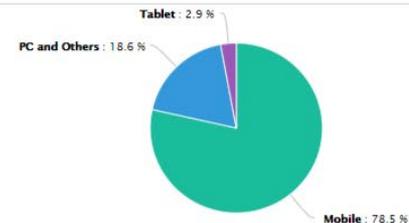
ページビュー数 : 98,775 PV 月間AV. : 8,969



ブラウザ別



使用デバイス



平均セッション時間 : 2分00秒

直帰率 : 67.56%

検索キーワード

順位	キーワード	回数
1	臓器	77
2	植物状態	75
3	植物人間	71

参照元

順位	参照元	回数
1	google / organic	28392
2	yahoo / organic	10175
3	(direct) / (none)	3071

情報発信と活用状況（JOT）

【SNSの展開】 YOUTUBE／FACEBOOK／TWITTER

< 目的 >

臓器移植医療の情報を広く、国民に周知、普及啓発を図ると共に、個人が個人に情報や思いをつなげ、個人の善意の基づく、個人の支援の機会の拡大を図る。

< 内容 >

SNSを活用することで、より広く臓器移植医療の情報（映像コンテンツ等を含む）を提供し、加えて大切な人に情報や思いをつなげる。

特に、JOTでは個人の善意に基づく情報の拡大を形づけるため、シェアやいいね等のアクションによる情報や思いが繋がりがやすいFacebookを中心に展開を進める。

また、2020年度より、**厚生労働省のtwitter／Facebookとの協働**をすすめ、より積極的な展開を進める。

● YouTube



- 開始時期：H23～
- チャンネル登録者数：約1,500人

● Facebook



- 開始時期：H26～
- フォロワー数：約36,000人

コンテンツ
共有

● twitter(厚生労働省)



- フォロワー数：
➢ 約904,000人

● Facebook(厚生労働省)



- フォロワー数：約288,000人

中学校、高等学校、大学、社会人に至るまで連続的に、移植医療を通して生命について自分事として考える機会を提供する環境整備が必要

(日本学術会議臨床医学委員会移植・再生医療分科会：提言「我が国における移植医療と再生医療の発展と普及」, 2020)

校種	学校数	対象人口(人)	教科との親和性	JOT等の取組	今後の課題
小学生	19,738校 (国立:69, 公立:19,432, 私立:237)	生徒:630万 教員:34万	・道徳の教科化 (2018年度～) ・保健体育	・教育者向けセミナー (2021年度～) ・出前授業 ・JOTへの訪問学習	【命の大切さに触れる】 ・地域、学校保健などの活用
中学生	10,222校 (国立:70, 公立:9,371, 私立:781)	生徒:321万 教員:24.7万	・道徳の教科化 (2019年度～) ・理科〔脳死/植物状態〕 ・社会科〔4つの権利〕 ・保健体育 ・総合の学習	・中学3年生対象の小冊子配布【厚労省】 ・教育者向けセミナー ・教育者向け資材 ・出前授業 ・JOTへの訪問学習	【多面的に考え、家族と話す】 ・中学全校における道徳授業の実施（移植医療の専門家ではない教諭への支援の充実） ・高校・大学への接続を意識したカリキュラムマネジメント
高校生	4,887校* (国立:15, 公立:3,550, 私立:1,322) *全日制、定時制のみ	生徒:309万 教員:23万	・保健体育 ・公民(2022年度～) ・生物 ・総合の学習	・出前授業 ・JOTへの訪問学習 ・ボランティアでの取組	【主体的に学び、意思決定を試みる】 ・PBLへの組入れなどで生徒の主体的な学びを支援 ・SDGs教育と関連づける
大学生 (専門学生 含む)	795校 (国立86, 公立94, 私立615) (医療系:13%, 理・工・農:21%, 人文 社会・その他:67%)	生徒:290万 教員:40.8万	・一般教養 ・生命倫理 ・医事法 ・医療関連科目 ・探究活動(ゼミなど)	・出前授業 ・自動車教習所・運転免許センター・成人式でのパンフレット配布	【意思表示媒体と向き合い、記入する】 ・一般教養、SDGs教育への組入れ ・免許証、保険証に初めて触れる機会を活用する ・伝える側になる

データ参考：ナレッジステーションの学校データ（令和2年度）(gakkou.net)

【2020年最新版】高校に関する統計まとめ（高校の数・教員数・職員数の推移）(education-career.jp)

文部科学統計要覧（平成30年版）：文部科学省(mext.go.jp)

意思決定・意思表示に関する国際比較調査結果(1)

- 家族との対話経験、不安の低減、コミットメント、誇りが重要
- 「脳死が人の死」という認識、宗教の信仰度の影響は認められなかった

行動の有無に影響を及ぼす因子 ※有無群に統計学的有意が認められた項目に●	関心をもつ (4か国)	意思決定 (4か国)	意思表示 (2か国)
家族との対話経験	●	●	●
寄付の経験	●		
コミットメント（考える時間）		●	●
ポジティブイメージ（社会に良いこと，身近，家族など）	●		
ネガティブイメージ（不安，怖い）なし		●	●
正しい知識	●		
提供に対するポジティブな認識	●		
提供に対する不安がない	●	●	
提供の価値の認識	●		
意思決定（表示）の価値の認識	●		●
合理的考え（死後は有効活用してほしい）	●		●
誇りに感じる		●	●
自己犠牲			
「脳死が人の死」という認識			
宗教の信仰度			

※対象：スペイン・フランス（opting-out）、イギリス・ドイツ（opting-in）、意思表示の2カ国とはopting-inの2カ国、各312例の一般を対象とした調査結果

意思決定・意思表示に関する国際比較調査結果(2)

日本は

- 知識レベルは他国と同様（むしろ正解率は高い）
- 家族との対話経験・誇りの認識が低く、不安の認識が高い

行動の有無に影響を及ぼす因子	イギリス (n=312)	ドイツ (n=312)	フランス (n=312)	スペイン (n=312)	日本 (n=10,000)
人口百万人あたりの臓器提供者数（2019年）	24.9	11.2	33.3	49.0	1.0
家族と話した経験（％）	62.2	72.1	72.1	80.1	35.4
知識10問の正答率（％）	44.0	46.9	47.0	42.6	51.8
「脳死は蘇らない」の正答率（％）	56.1	56.7	51.3	40.7	58.7
「植物状態は回復する可能性がある」の正答率（％）	30.8	24.0	19.9	36.2	73.0
臓器提供は「不安」を感じている人（％）	48.1	47.8	47.8	27.2	60.7
臓器提供へ「誇り」を感じている人（％）	69.5	46.5	61.6	74.4	31.4
「臓器提供は家族の誇り」と思っている人（％）	59.9	45.5	53.6	69.3	5.7
「意思決定は重要」と思っている人（％）	66.3	68.3	73.0	73.1	76.3
「脳死が人の死」と思っている人	48.3	51.9	49.9	52.5	44.3
自己を犠牲にして人を助ける必要があると思っている人(%)	42.3	35.6	33.1	51.6	41.3
宗教を信仰している人（％）	40.1	34.3	32.4	52.2	該当なし

※日本は異なる時期の調査結果（間接比較）

海外の啓発事例（スペイン/opting-out）

移植者が「誇り」をもって移植のすばらしさを伝えている

Gran èxit de la Transplant Run 2017!

La cursa celebrada el passat diumenge 19 de març de 2017 supera la seva darrera marca amb 2.500 participants.

29/03/2017 | 10:59



Gràcies al suport de participants i voluntaris, la Transplant Run 2017 ha aconseguit, en una jornada marcada per un ambient magnífic, una gran marca per la vida! Felicitats a tots!

Una panoràmica del moment previ a la sortida de la Transplant Run 2017

Destacuem

- Facebook TransplantRun: Aquí trobareu les darreres notícies sobre el desenvolupament de la cursa.
- Classificació i marques personals: Accedeix a l'entorn per veure el teu resultat i descarregar-te el diploma acreditatiu (només per als participants que portaves el vestit).
- transplantrun.com: Accedeix a la pàgina web transplantrun.com per obtenir més informació sobre la cursa.
- Notícia de l'organització de la Transplant Run 2017

Notícia dels participants de la Transplant Run 2017

La Transplant Run 2017 ha aconseguit el seu objectiu: superar la marca de 2.500 participants. El diumenge passat 2.500 corredors, 100 més que en l'edició anterior, es van aplegar al Parc Flourens de Barcelona per participar en aquesta cursa.

Més de 200 nens participen en la primera baixada solidària de "Grands Heróis" a favor del trasplantament infantil

29/03/2017 | 11:00

Graciolana ha aconseguit un altre èxit: més de 200 nens del Dia del Traspantament que en solitari van, dia 29 de març, Cap de Mar. Cap de Mar és un dels principals programes de l'OCATT i de diverses famílies amb nens trasplantats, representants d'associacions de pacients com la capelana ANINATH.

29/03/2017 | 11:00



Dels 1.015 trasplantaments realitzats a Catalunya l'any 2016, 44 eren trasplantaments infantils, la gran majoria dels quals estaven causats per malalties congènites. Avui a Catalunya hi ha 20 nens en llista d'espera.

Destacuem

- Vídeo de la baixada i declaracions dels representants: En aquest vídeo d'un minut, podràs veure un resum de la jornada i algunes declaracions dels representants d'ANINATH i de l'OCATT, entre d'altres.
- Notícia de Graciolana sobre la baixada del Grands Heróis: Aquí trobareu més informació sobre la baixada, inclòs fotos i alguns vídeos.
- Associació ANINATH

Una foto dels Grands Heróis

Començava a ploure aquest cap de setmana de primers d'abril en la primera baixada solidària en suport als trasplantaments infantils. En total, més de 200 nens van participar en aquesta cursa i molts més ens van ajudar que prenent el sol i vestint-se amb blau. Els grups de trasplantaments van arribar al Parc Flourens del Traspantament. Els programes d'espera pediàtrica van estar als punts de trasplantament i les seves famílies que han estat acompanyats de terra. Els nens d'espera van jugar per una vida al jardí de Soler, vestits amb una capa blava de super heroi i acompanyats al parc.

Iniciativa com aquesta ajuda a realitzar una bona comunicació sobre la comunicació de la donació.

Catalunya fa 1 de cada 4 trasplantaments pediàtrics de tot l'Estat

29/03/2017 | 12:00

Catalunya realitza 1 de cada 4 trasplantaments pediàtrics de tot l'Estat. En els primers 5 mesos de 2017, s'han fet 10 trasplantaments pediàtrics de tot Catalunya, 4 de fetge i un de cor, a partir de 3 òrgans de donants catalans i 2 de donants vells.

29/03/2017 | 12:00



L'any 2016, l'Hospital Sant Joan de Déu i l'Hospital Materno-Infantil Vall d'Hebron, els centres de trasplantaments pediàtrics de Catalunya, van realitzar fins a 44 trasplantaments: 18 de renals, 16 d'hèpatics, 5 pulmonars i 5 pancreàtics.

XI Caminada en agraïment als donants d'òrgans i teixits: Les associacions de pacients trasplantats organitzen la 1a i la 2a edició de la Caminada en agraïment als donants d'òrgans i teixits a les seves localitats, una alhora. Tu ho has fet possible! Com en anteriors edicions, el recorregut començarà a la Plaça Catalunya i finalitzarà al Monument del Donant al Parc de la Sagrada Família.

Necessitat de la cursa Transplant Run 2017: La Transplant Run busca compensar la població sobre la integritat de les donacions. Rememora la gràcia de regalar i els milers de vides salvades, especialment entre aquells grups de pacients i receptors que per a proporcionar-los les seves qualitats de vida.

Presentació del Pla del Donant 2017

OCATT, Organització Catalana de Trasplantaments comparteix la publicació de ANINATH

Publicada por Jorge Tocaño 11 - 12 de junio a las 13:58

Ahir va tenir lloc la XI Caminada en agraïment als donants d'òrgans i teixits i a les seves famílies. Gràcies DONANT, tu ho has fet possible!

Ayer tuvo lugar la XI Caminata en agradecimiento a los donantes de órganos y tejidos y a sus familias. ¡GRACIAS DONANTE, tú lo has hecho posible!



TRASPANTAMENT = VIDA
GRÀCIES DONANTS

Un petit gest que ajudarà a salvar vides

La ESOT (European Society for Organ Transplantation) està creant un vídeo juntament amb l'artista de #JUNTOS, amb l'objectiu de promoure la donació d'òrgans i augmentar així la taxa de donants a nivell mundial. Tanimes a participar? És el teu vídeo i en va! T'ajudem com fer-ho.

16/06/2017 | 10:56



Recorda: Els òrgans donats salven milers de vides cada any, però encara moren cada dia, a Europa, 11 persones esperant un trasplantament. Més de 100.000 europeus necessiten un òrgan per continuar vivint.

- #JUNTOSCONESOT: La ESOT (European Society for Organ Transplantation) està creant un vídeo juntament amb l'artista de #JUNTOS, amb l'objectiu de promoure la donació d'òrgans i augmentar així la taxa de donants a nivell mundial. Tanimes a participar? És el teu vídeo i en va! T'ajudem com fer-ho.
- #JUNTOS
- European Society for Organ Transplantation (ESOT)
- Congrés ESOT 2017 a Barcelona: Els dies 24, 25, 26 i 27 de setembre de 2017 serà el 1er congrés de la ESOT a Barcelona i el congrés biennal de la societat científica.

El vídeo: Segueix els dos gestos encadenats en 5 segons

Com participar:

- Grava un petit vídeo. Fent el gest de #JUNTOSCONESOT (com es descriu a la imatge o amb més detall a <http://www.juntosconesot.org>) amb un telèfon i envia'l en mode horitzontal.
- Envia el vídeo per correu electrònic a: esot2017@esot.org o per WhatsApp al: +351 911 972 752 824 de dia!

Ja està, és així de fàcil un petit gest que ajudarà a salvar vides!

Aquesta iniciativa promoguda per l'ESOT, té per objectiu augmentar la comunicació sobre la donació d'òrgans i teixits i augmentar així la taxa de donants, tant a Europa com a la resta del món. El resultat d'aquesta iniciativa es podrà veure, per primer cop, a Barcelona a partir del 24 de setembre, data d'inici del Congrés ESOT 2017 que es realitzarà a la nostra ciutat.

El dia 28 és #GivingTuesday, ens ajudes?

28/11/2017 | 12:11

El 28 de Novembre de 2017 és #GivingTuesday, un moviment global que vol incentivar i multiplicar les bones accions de les persones. El dia és dedicar un dia a tot el món, a celebrar l'acció de donar, ja siguin aliments, diners, temps, pensaments, decisions o accions. Unir-se és molt senzill: només calen ganes de fer un món millor!



Per primera vegada, l'OCATT participa al #GivingTuesday amb el projecte: Dona vida, fes-te donant! Les teves accions ajudaran a que més persones com tu es facin donants!

Enllaços amb informació complementària

- Descarrega't el carnet del donant
- Facebook OCATT: <https://www.facebook.com/OCATT Catalunya>
- Pensa en gran, 1 = 8 + 100! Un donant pot arribar a salvar la vida de fins a 8 persones amb el trasplantament dels seus òrgans i millorar la qualitat de vida de fins a 100 persones més gràcies als seus teixits

Col·labora en el projecte Dona vida, fes-te donant! és senzill. Només et demanem que facis 1, 2, 3, 4 o 5 accions que et proposem a continuació:

1. Has pensat mai en la donació d'òrgans? Avui és un bon dia per fer-ho, no creus? Reflexiona, decideix i comunica la teua voluntat a famílies i amics!

海外の啓発事例（スペイン/ opting-out）

臓器提供が多い（世界一）ことを積極的にマスメディアを通して発信している
⇒国民の「誇り」につながっている

EL PAÍS CATALUNYA

Més de 1.350 catalans esperen un trasplantament
Una vintena de nens estan pendents de sotmetre's a una intervenció de fetge, cor, ronyó o pulmó

Deu trasplantaments en 24 hores
L'Hospital Vall d'Hebron va completar satisfactòriament aquestes quatre operacions pediàtriques i sis d'adults al novembre

Ningún niño sin ligote

La vida no s'atura **Donar per salvar vides**

El valor de ser donant

Accions altruïstes **Un gran esforç col·lectiu** **Un país líder en solidaritat**

Catalunya, líder mundial en trasplantaments d'òrgans

- El país, amb 315 donants l'any passat, gairebé iguala la taxa de donacions de l'Estat, número 1 del món
- El 2016 s'ha reduït la llista d'espera però tot i així avui encara és de 1.301 persones

Catalunya, líder en trasplantaments i donació d'òrgans

Donants d'òrgans al 2016	Trasplantaments d'òrgans
1.315 donants	1.000 trasplantaments
1.200 donants	800 trasplantaments
1.100 donants	600 trasplantaments
1.000 donants	400 trasplantaments
900 donants	200 trasplantaments
800 donants	100 trasplantaments
700 donants	50 trasplantaments
600 donants	25 trasplantaments
500 donants	12 trasplantaments
400 donants	6 trasplantaments
300 donants	3 trasplantaments
200 donants	1 trasplantament

Catalunya, líder mundial en trasplantaments d'òrgans

MIRIÀ ROURERA - BARCELONA
Catalunya té la taxa de trasplantaments d'òrgans més alta del món, 135 per milió de població (pmp), una xifra que supera l'Estat espanyol (107 pmp), que fins ara n'era líder absolut i a molta distància, per exemple, de la mitjana europea, 66 pmp, o dels Estats Units, 98 pmp. El conseller de Salut, Toni Comín, va donar ahir "la bona notícia" que l'any passat i per primera vegada en la història el país va superar la línia dels 1.000 trasplantaments, perquè se'n van fer 1.045. Fa unes setmanes la Vall d'Hebron va batre el rècord d'haver fet deu trasplantaments en 24 hores, quatre dels quals pediàtrics.

Notícies | Salut

Catalunya va fer 44 trasplantaments pediàtrics el 2016, 7 amb cor

El 9 de maig de 1984 feigu el doctor Josep Maria Caraps va assistir el primer trasplantament de cor que es feia a l'estat espanyol. Va tenir lloc a l'Hospital de la Santa Creu i Sant Pau i un dels cirurgians que hi van participar aleshores és l'actual director del servei de cirurgia, el doctor Josep Maria Padró. Aquest passat més d'agost s'hi va fer el trasplantament número 500.

"És un record inaberrable", recorda el doctor Padró. "Períem molt de temps preparant-nos pel trasplantament i estàvem convençuts que aniria bé. Sabíem que l'èxit seria repercutiu, anàlisi bé o malament, i que afectaria el futur de molts pacients".

La primera persona trasplantada va ser un jove de 20 anys, que patia una cardiopatia dilatada terminal. El seu cor era massa gran i no tenia força per a bombegar la sang per tot el cos. Després d'aquell trasplantament va poder fer vida normal però, passats onze mesos, va rebuïjar el cor i va morir.

El Departament de Salut i l'Organització Catalana de Trasplantaments fa una crida a la donació d'òrgans també pediàtrica.
El 9 de maig de 2017, Catalunya ha realitzat 10 trasplantaments infantils. 8 de ronyó, 1 de fetge i un de cor, a partir de 4 legions de donants catalans. 13 donants són de total, el 2016, se'n van realitzar 48. I només en 7 casos, els òrgans procedeixen de donants infantils catalans, ja que les sol·licituds són més difícils de satisfer. La família s'hi va negar, per aconseguir fer aquests trasplantaments i aconseguir la llista de 20 nens que esperen trasplantaments a Catalunya, s'ha reobert en 5 casos, a òrgans de l'estranger. En el marc del Dia del Donant, el Departament de Salut ha volgut fer una crida a la població perquè assisteixi per la donació com una forma de donar vida, i les necessitats de trasplantaments infantils representen cada any "molt jocs caucor", ha dit Jaume Tor, director de l'OCATT, i els pares i mares passen per una situació "d'incertesa" després de la mort d'un fill a causa de la donació d'òrgans a un cos que el 2016, va suposar que dels 6 pacients catalans d'aquell moment, només es van poder trasplantar els òrgans de 4, en la resta, la família s'hi va negar.

海外の啓発事例（スペイン/ opting-out）

多様なコミュニティにおいて対話を行い、コミットメントを高めている

バルセロナ病院があるカタルーニャ地区では、病院周辺の高校を対象としたプログラムを実施。毎週15名ずつ高校生が病院を訪問し、4時間の移植医療に関する講義のほか、移植患者との対話をしている。毎年1,000名以上が体験し、移植医療が日常の話題になっている。同地区の提供意思は85%と他地域より高い。



海外の啓発事例（スペイン/opting-out）

YESを推奨するメッセージが主流である

Webpage

提供YESと言おう！

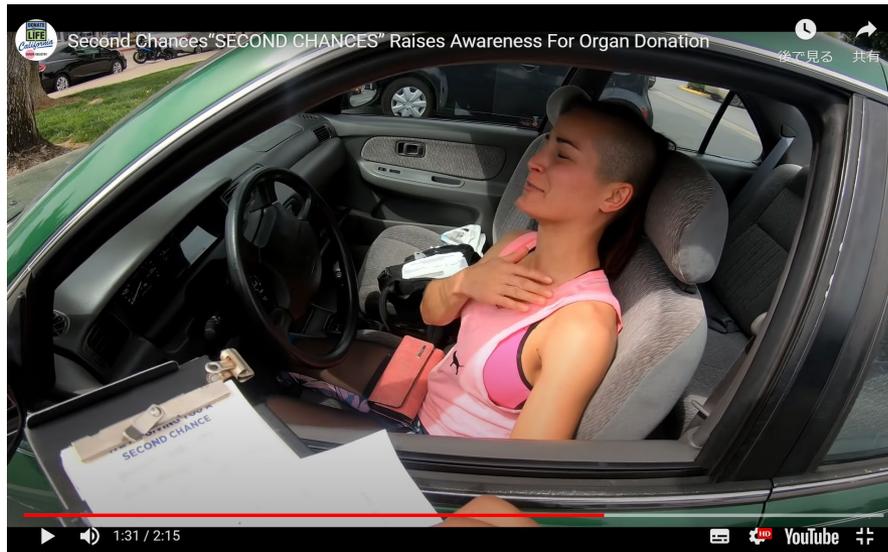
Facebook
24.6K followers

もう考えないで
ドナーになろう！

海外の啓発（米国/opting-in）

YESとサインすることを（社会的責任と）推奨している
「ドナーはヒーロー」とメッセージし、臓器提供を「誇り」とする社会規範を形成している

SECOND CHANCES/DONATE LIFE CALIFORNIA （2019カンヌライオンズPR部門 ゴールド受賞）



ドナーは
ヒーロー

カリフォルニア州の警察とのタイアップ。
ドライバーが軽微な違反をした際に、警察は免許証を確認する。
ドナー登録をしていた場合は実際のチケットの代わりに警告で済むセカンドチャンスチケットを渡す。「他の人の人生にセカンドチャンスを与えているあなたにも、セカンドチャンスにあたえましょう」という文脈でドナー登録者を称える。
前年から38%増の110,609人の新規ドナー登録。カナダにも拡大。



海外の啓発（豪州/opting-in）

ドナー登録、家族との対話促進を目的としている

国民の約70%が臓器/組織ドナーになる意思を持っているが、登録している人は33%。登録している人でも、家族に伝えていないという課題に直面し、「家族との対話」に注力している。

家族と話そう！



ドナー登録しよう！

7月下旬～8月初旬の「Donate Life Week」で、登録の促進に注力



Donate endurance DonateLife



Callum, 17, heart recipient

Callum's life was saved by an organ donor.

What are you waiting for?

Register to be a donor today at
donatelife.gov.au



#donatelife
#endthewait
#makeitcount

Facebook: @DonateLifeAustralia Twitter: @DonateLifeToday Instagram: @donatelifetoday

海外と比較した日本の啓発の課題

- ① 「YESの推奨」をメッセージすることが難しい
- ② 臓器提供は「誇り」であるという規範が醸成されていない
- ③ 各地域で人々のコミットメントを高める施策が十分でない(情報提供中心)

不安を低減し、誇りを醸成し、コミットメントを高めるEBEが必要

